



平成 29 年 11 月 10 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 ナ ッ ク  
代 表 取 締 役 社 長 吉 村 寛  
(コード番号 9788 東証第 1 部)  
問 合 せ 先 ビジネスサポート本部長 川上 裕也  
(TEL. 03-3346-2111)

### 平成 30 年 3 月期第 2 四半期累計期間業績予想と実績値の差異 及び通期業績予想の修正に関するお知らせ

平成 29 年 5 月 12 日に公表いたしました平成 30 年 3 月期第 2 四半期累計期間の業績予想と本日公表の実績値に差異が生じたので下記のとおりお知らせいたします。

また、平成 30 年 3 月期連結業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

#### 記

#### 1. 平成 30 年 3 月期第 2 四半期累計連結業績予想数値との差異 (平成 29 年 4 月 1 日～平成 29 年 9 月 30 日)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	親会社株主に帰属 する四半期純利益	1 株 当 たり 四 半 期 純 利 益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前 回 発 表 予 想 ( A )	36,200	△ 1,500	△ 1,490	△ 1,050	△ 62.53
実 績 値 ( B )	38,148	△ 1,561	△ 1,576	△ 1,429	△ 85.12
増 減 額 ( B - A )	1,948	△ 61	△ 86	△ 379	
増 減 率 ( % )	5.4	—	—	—	
(参考) 前期連結実績 (平成 29 年 3 月期第 2 四半期)	34,361	△ 2,272	△ 2,266	△ 1,810	△ 107.05

#### 2. 平成 30 年 3 月期第 2 四半期累計個別業績予想数値との差異 (平成 29 年 4 月 1 日～平成 29 年 9 月 30 日)

	売 上 高	経 常 利 益	四 半 期 純 利 益	1 株 当 たり 四 半 期 純 利 益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
前 回 発 表 予 想 ( A )	15,000	450	250	14.89
実 績 値 ( B )	15,171	695	382	22.75
増 減 額 ( B - A )	171	245	132	
増 減 率 ( % )	1.1	54.5	52.9	

3. 平成30年3月期通期連結業績予想数値の修正（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想（A）	96,300	2,000	2,050	850	50.62
今回修正予想（B）	94,100	2,000	2,050	550	32.74
増減額（B－A）	△2,200	0	0	△300	
増減率（％）	△2.3	－	－	△35.3	
（参考）前期連結実績（平成29年3月期）	85,901	756	793	415	24.65

4. 平成30年3月期通期個別業績予想数値の修正（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想（A）	33,000	1,350	750	44.66
今回修正予想（B）	33,000	2,100	1,260	75.01
増減額（B－A）	0	750	510	
増減率（％）	－	55.6	68.0	
（参考）前期個別実績（平成29年3月期）	30,249	1,636	1,042	61.86

5. 修正の理由

（連結業績予想）

(1) 平成30年3月期第2四半期連結累計期間の業績予想（平成29年4月1日～平成29年9月30日）

次に挙げる理由により、営業利益、経常利益を各々61百万円、86百万円、また、親会社に帰属する四半期純利益を379百万円下方修正することといたしました。まず、住宅事業の中核子会社レオハウスにおいて、厳しい価格競争に伴う販売単価の低下や建築資材の高騰や職人不足を背景として建設コストが増加したのに加え、不採算店舗の固定資産に対する減損損失を計上いたしました。一方、個別業績における経常利益、四半期純利益は当初発表予想より各々245百万円、132百万円上振れましたが（理由後述）、結果としてレオハウスをはじめとする住宅事業の下振れを補いきれなかったことによります。

(2) 平成30年3月期通期連結業績予想（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

当第2四半期連結累計期間の実績に加え第3四半期連結会計期間以降の見通しを踏まえ、平成29年5月12日発表の通期連結業績予想を修正いたします。

親会社に帰属する当期純利益は、レオハウスをはじめとする住宅事業において、第2四半期連結累計期間と同様の状況が続くことにより300百万円下方修正することといたしました。平成29年6月以降、4カ月連続で新設住宅着工戸数が減少するなど、住宅業界全体が弱含みである影響から、第2四半期連結累計期間での受注数、受注残ともに前年同期比で減少し、売上高が当初予想を下回る見込みであります。これに加え、第2四半期連結累計期間で不採算店舗の固定資産に対する減損損失を計上したことが影響いたしました。

(個別業績予想)

(1) 平成30年3月期第2四半期個別累計期間の業績予想(平成29年4月1日～平成29年9月30日)

経常利益、四半期純利益は、クリクラ事業において直営部門での顧客継続率の改善や顧客単価の増加及び販売管理費の適正化を図ったこと、レンタル事業においてダストコントロール部門での顧客単価の増加、トータルケアサービス部門での顧客数の増加、害虫駆除部門での基礎顧客数増加及び飲食店向け害虫駆除機「with(ウィズ)」のリニューアルによる加盟店への販売増加などにより売上高が増加した結果、上方修正することといたしました。

(2) 平成30年3月期通期個別業績予想(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

当第2四半期個別累計期間の実績に加え第3四半期個別会計期間以降の見通しを踏まえ、平成29年5月12日公表の通期個別業績予想を修正いたします。

経常利益、当期純利益は、クリクラ事業において第3四半期以降も引き続き直営部門での顧客継続率の改善や顧客単価の増加が見込まれ、第2四半期までに実施した販売管理費の適正化を第3四半期以降も継続すること、レンタル事業においても第2四半期までの売上高増加要因が第3四半期以降も継続的に見込めることにより、各々750百万円、510百万円上方修正することといたしました。

(注) 上記の業績予想は、本資料の発表時点において入手可能な情報に基づき作成しております。実際の業績は、今後の様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

以 上